

〈宮城県環境を最大限に活用し、施設園芸に取り組む生産者の声〉

栽培に関する感想 ①宮城県の自然環境（気温、日照時間）と栽培について ②生産性を上げるポイント ③今後の目標

（株）デ・リーフデ北上（石巻市）

栽培品目：トマト、パプリカ
面積：トマト 1.1ha、パプリカ 1.3ha
施設：フェンロー型鉄骨ハウス
利用機器：複合環境制御装置
（CO₂施用機）

栽培実績：トマト H29 37t/10a
パプリカ H29 24t/10a

平成28年8月から1作目栽培開始

栽培についての感想

- ①宮城県の沿岸部は春先の日射量が豊富で降雪が少なく、春から初夏の気温が低く環境制御に適した環境であり、トマト、パプリカともに安定した生産を上げている。
- ②自然環境を余すところなく活用した最適な環境制御と、一定のスピードと精度の高い作業管理を実現するパート職員のレベルアップを図っている。
- ③栽培開始2年目でトマトやパプリカの単収は国内トップクラスの実績を上げることができた。今後も環境制御技術の習得、販売部門から求められる品質と高単収のトマト45t/10a、パプリカ25t/10aを達成する。



施設園芸に最適な環境は宮城にあります

（株）やまもとファームみらい野（山元町）

栽培品目：トマト
面積：66a
施設：フェンロー型鉄骨ハウス
利用機器：複合環境制御装置
（CO₂施用機、ミスト）

栽培実績：トマト H29 50t/10a

平成29年3月から1作目栽培開始

栽培についての感想

- ①宮城県の沿岸部は日射量が豊富で海風も入り夏涼しいので、トマトの周年栽培では珍しい夏越しの栽培で安定した品質と収量を達成できる手応えをつかんでいる。
- ②夏越しに合わせたヒートポンプによる夜間冷房、ミストによる飽差管理、栽培環境に適した密植栽培とともに、徹底したデータ分析にもとづく栽培管理と効率的な労務管理を行っている。
- ③栽培開始初年度から国産品種で50t/10aの収量を實現しました。周辺の農園でも挑戦してみたいと思ってもらえるように、今後も夏越しの作型で安定した収量実績をあげていきたい。



メリット1

施設園芸に適した
気象条件

夏季は冷涼、冬季の日射量は関東と同程度

メリット2

充実した企業
優遇制度や助成事業

県と市役所等が連携し支援

メリット3

成果を生み出す
技術支援体制

生産者自らが技術力を高めることができるバックアップ体制

「みやぎの施設園芸に興味を持ったら」

問い合わせ先

宮城県農林水産部 園芸振興室

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1

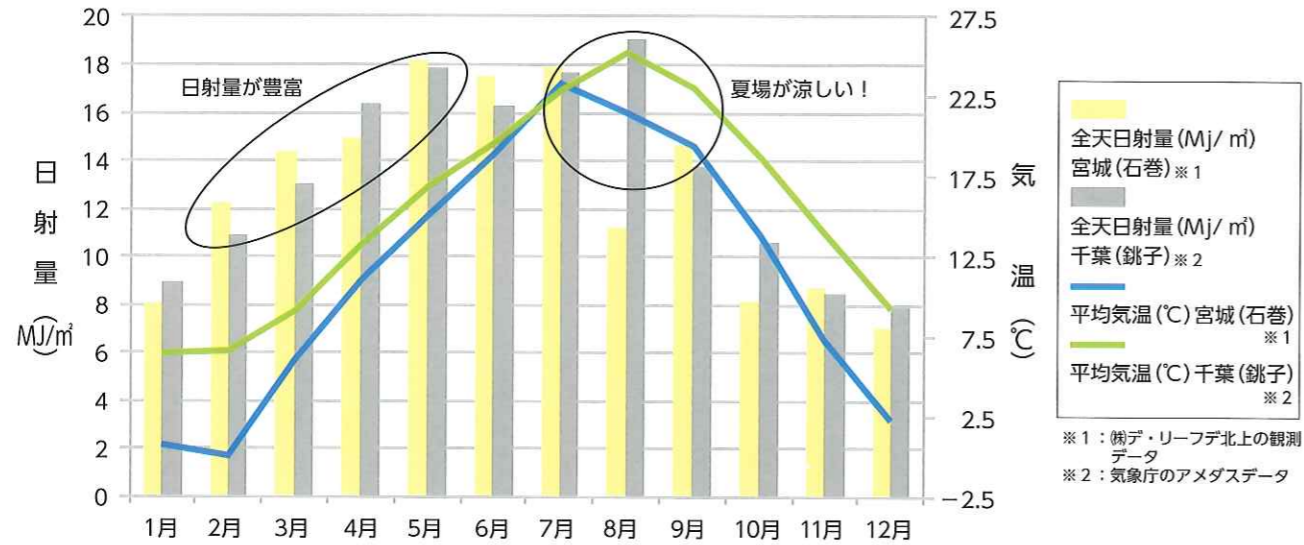
TEL 022-211-2723 FAX 022-211-2849 E-mail engei-senshin@pref.miyagi.lg.jp



平成30年11月作成

メリット1 施設園芸に適した気象条件

宮城県(石巻)と千葉県(銚子)気象を比較してみると?



- ①平均気温
千葉県(銚子)と比較すると、夏場は1~3℃低い。
特に夜間温度が低い。
 - ②日射量
2~5月の日射量は千葉県(銚子)とほぼ同じが多い。
 - ③東北地方でも冬場の積雪量が少ない
- ①夏の夜間温度が低い
→自然の冷房効果
 - ②日射量
→光合成には日射量が一番重要!
 - ③雪が少ない
→ハウスが潰されるような積雪が少ない。

メリット2 充実した企業立地優遇制度や助成事業

→優遇制度

- 【大郷町】
企業立地促進特別奨励金…新規参入法人に最大1億円の奨励金

- 【女川町・石巻市(対象地域)】
原子力発電施設等周辺地域企業立地支援事業費補助金
…新規立地や設備の増設を行った企業等に対し、企業等が支払った電気料金の実績等に基づき、一定期間補助金を交付

→助成事業

- 園芸施設等の整備に利用できる補助事業メニューを用意
 - ・産地パワーアップ事業(国事業)
生産・出荷体制の強化や改善を目的に、産地ごとの取組を支援
 - ・みやぎの企業的園芸経営体整備モデル事業(国・県事業)
企業的園芸等施設整備型と付加価値創造支援型により、施設整備や経営の多角化に向けた整備等の取組支援
 - ・大規模園芸経営体育成事業(県事業)
年間販売金額1億円を目指し、販売金額向上に寄与する施設・機械等の整備の支援

メリット3 成果を生み出す技術支援体制と研究施設

●先進的技術のフォローアップ体制

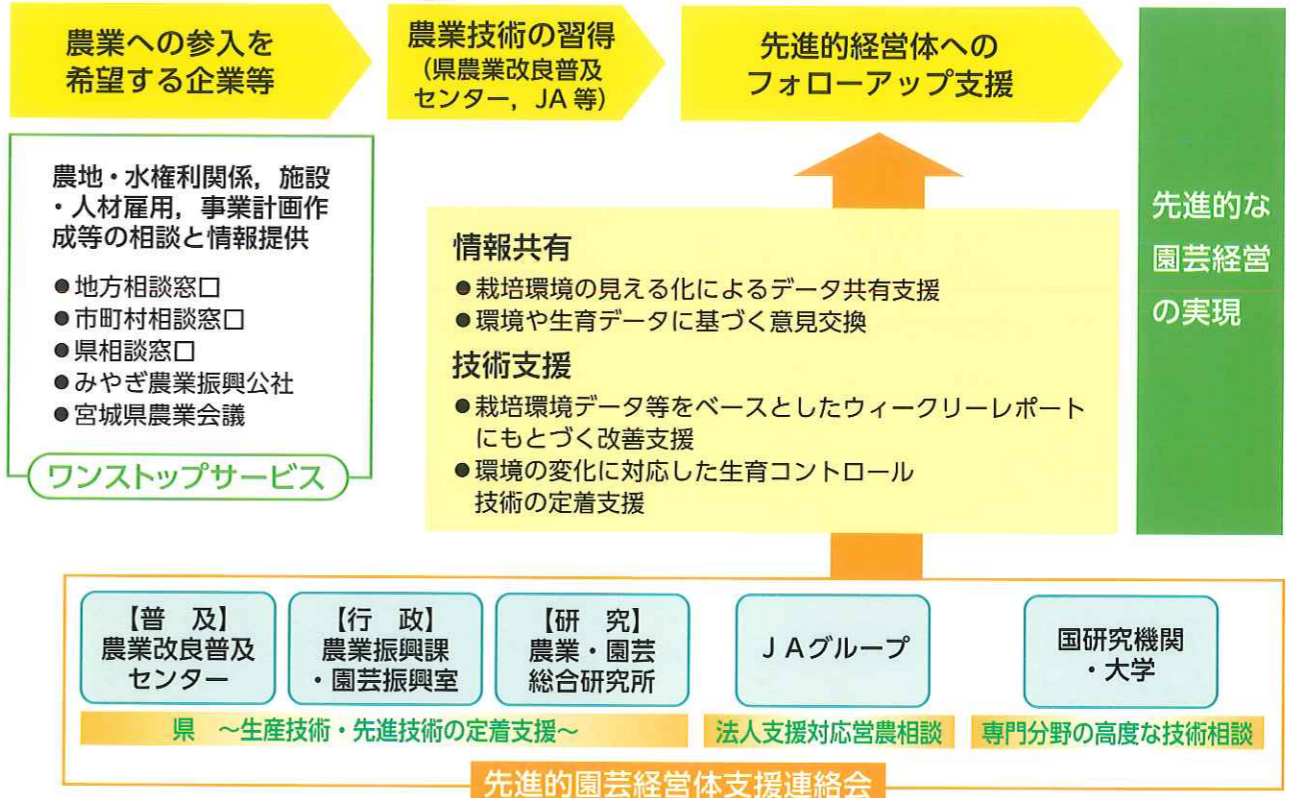
試験研究や農業改良普及センター等により、生産技術導入支援を行います。
さらに、先進的な園芸経営体育成に力を入れており、関係機関と生産者等のネットワークによる情報共有と技術支援を行っています。

●ネットワーク活動

生産者が環境や生育データを共有して、互いに技術を研鑽できるネットワーク。県内全域から参加。生産者が自ら生育調査を行い、データを分析し栽培に生かす能力を醸成します。

ネットワークへの参加農場
いちご(16者)、トマト(11者)
*その他、気仙沼、石巻、亶理地区でも独自の環境制御勉強会が開始

～体系図～



環境制御技術の向上と人材育成に向けた研修会の開催



最先端の試験研究施設
軒高6m、最新の環境制御機器を備えた施設